

町史編さん室だより

なぜ大口に鉄道はないの？

鉄道の敷設は、明治44年2月に庄内川橋梁の架橋工事が始まり、同年8月には岩倉〜一宮間、続いて岩倉〜犬山間が着工され、翌年1月には枇杷島〜岩倉間が着手されました。同年夏、大正元年8月6日から営業が開始されましたが、押切駅を始発駅とし、すべての電車が一宮行きで犬山方面は岩倉で乗り換えてました。また、同時に岩倉〜小牧間も開業されました（昭和39年廃止）。

岩倉〜犬山間が計画された際、その経路の決定過程はわかりませんが、郡役所のあった布袋に駅は欠かせないと当時の人々が考えたとなると、布袋から犬山へは北東に進むことになり、大口は経路を外れる位置関係になると思われます。

昭和57年刊行の『大口町史』には、『尾張電車株式会社日誌録』をもとに、明治39年8月に小口村役場で電車敷設の運動をすること、同年10月の大口村誕生を挟んで、翌年2月には大口村電車敷設の評議員会を設け、旧小口村上組3名、中組4名、下組5名が委員に選出され、陳情や経費の

確保など強力な敷設活動を展開したものの実現せずに残念であったと記されています。評議員が旧小口村で占められているのは、招致に熱心であったのか、旧小口村地内であれば敷設の可能性があるとの考えを持っていたのか興味深いところです。

なお、明治40年2月には、岩倉〜犬山間鉄道敷設事業は尾張電車鉄道から名古屋電気鉄道（現名古屋鉄道株式会社）に譲渡されており、交渉を難しくした一因かもしれません。

覚えていますか？ご存知でしたか？

駅名変更

- ① 「古知野」↓「江南」（昭和56年）
 - ② 「羽黒」↓「明治村口」（昭和41年）
- ↓「羽黒」（昭和60年）

昔あった停留所（昭和44年に廃止）

石仏と布袋の間に「小折」、江南と柏森の間に「宮後」という停留所があったということですが、駅という呼び名でなかったところから、無人で簡易なつくりであったようです。

問合せ先

町史編さん室 ☎95-3464



ウィル大口NEWS

VOL.8



こちらよりホームページをご覧ください↑

6月1日より町内全てのスポーツ施設を再開！

利用に関しては、新型コロナウイルス感染症防止のため、さまざまな制限を設けております。利用者の皆さんにはご不便をおかけしておりますが、ご理解ご協力いただき気持ちよく利用していただきたいと思います。

主なガイドライン

- ①来場時等マスクを着用
- ②37.5℃以上または平熱比1℃超過の方、体調の優れない方は来場をお控えいただく
- ③来場時の手指消毒
- ④利用時のソーシャルディスタンスを保ち3密を避ける

屋内外施設もガイドラインが設定されています。ホームページにて確認してから来場してください。

『こどもたちの声も戻って来た！』自粛生活を頑張ったこども

たちも待ちに待った教室再開で笑顔を見せて来ています。みんなでこの苦境を乗り越えましょう！！



▲ソーシャルディスタンスを保ちながら水泳教室を再開

教室一覧

多種目スポーツ/水泳/サッカー/幼児体操/園児体操/小学生体育/チアダンス/硬式テニス/ソフトテニス/バレーボール/フィールドホッケー/ミニバスケット/生き生き土曜学級/のびのび健康体操/健康麻雀/うたごえ喫茶/プログラミング

NPO法人ウィル大口スポーツクラブ事務局 大口町温水プール2階 午前10時から午後6時(月曜・火曜休業日) ☎95-1313